



企画にあたって

岸 拓弥

(国際医療福祉大学大学院医学研究科教授)

プライマリケアから集中治療まで幅広い領域で遭遇する「失神」は，診断・治療に循環器内科が主体的な役割を担うことが多い。一方で，失神の原因は不整脈だけでなく虚血性心疾患・心不全など器質的心疾患に付随するものや，神経調節性失神など循環制御の一過性の破綻，さらには神経内科領域まで多岐にわたり，診断は緊急を要することも多い。加えて，診断に至る検査のすべてを網羅的に行うことは望ましくなく，症候学からあげられる鑑別診断に基づき優先順位をつけて検査を行い確定診断に至る必要がある。そのためには，失神の原因となるあらゆる疾患の正しい知識だけでは不十分であり，症候学に基づく診断から具体的な治療に至るまでを実践的に習得することは循環器内科医にとって必須である。

しかしながら，失神を体系立てて学ぶのは容易ではない。特に最新のガイドラインを含めた知見も整理されている書物となると，ベストなものは存在しない。そこで，若手からベテランまで，さまざまな専門領域の循環器内科医が一冊で失神を学び実践できることを目的とするのが本企画である。「診る」のパートでは失神ガイドラインの熟考から ER での失神の対処法を，「識る」のパートでは循環生理学の観点で考える神経調節性失神や不整脈・虚血性心疾患・心不全による失神の病態生理を，そして「治す」のパートでは神経調節性失神や不整脈・心不全による失神の具体的な治療戦略について，それぞれの領域におけるわが国のオピニオンリーダーにまとめていただいた。また，Expertise として，失神の診断における植込み型ループレコーダの活用や神経内科にコンサルトすべき失神に加え，日本初の失神センターについての項を設けた。この一冊が読者にとって，あらゆるフィールドで「失神」を的確に対応できるスキルの習得につながることを切に願うものである。